

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500303
法人名	社会福祉法人 三恵会
事業所名	グループホームかがやき
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7-20
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 27 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの目の前に市の東浜公園が広がっており、開放的でいつでも気軽に散歩や休憩ができます。お花見や運動会を実施し、季節感を味わっていただいております。ご家族の来訪者が多く、休日には遊具で遊ぶ子供さんや、ゲートボールを楽しむ地域の方と会話を楽しく過ごされております。これからもスタッフ一同「笑顔で、共に、生き生きと」を心に利用者様と一緒に生きていきたいと考えています。又、小規模特養うみかぜとの複合施設となっているため、これからも協力体制を図りながら、地域の高齢者福祉に貢献していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者総合施設の1階にある事業所は、グループホーム専用の家庭的な玄関があり落ち着いた雰囲気を感じられる。ユニット間は自由に行き来ができるようになっており、利用者と職員は共に顔馴染みの関係となっている。管理者と職員は事業所独自の理念を共有して、利用者の方々の暮らしを支えている。地域の自治会に入り利用者と一緒に地域の行事に参加するなど、地域の一員としての役割を担っている。総合施設合同で開催した夏祭りには地域住民が多く参加し、地域のイベントとして定着している。事業所の敷地内には観音像を設置しており、地域住民も参拝できるようになっており参拝者と交流をしている。食事は総合施設の厨房で調理し、献立も栄養士が立てているため栄養管理もできている。医療面では利用者が希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームかがやき
(ユニット名)	虹
記入者(管理者)	
氏名	小笠原 博子
評価完了日	平成 25 年 8 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎年4月職員全体にて「職員の姿勢」の勉強会として法人・事業所の理念を学び再認識する。又月曜日の朝会にて復唱している。これを踏まえ「かがやき」の理念も掲げユニット内に掲示し実践強化に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員全員で話し合い事業所独自の理念を作成し、事業所内のよく見える場所に掲示し共有して実践している。毎週月曜日に総合施設の職員と合同で法人理念と共に復唱しており、会議等でも理念を実践できているか職員間で確認し合っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の自治会に加入し地域の一員として交流している。地域行事に参加したり、直近では「うみかぜ」と合同で「恵海まつり」を開催し、地域の方への感謝の気持ちを還元し、入居者様と一緒に楽しんだ。</p> <p>(外部評価) 事業所は自治会に加入しており、自治会の一員としての役割も担っている。地域の行事の案内もいただき、利用者と一緒に行事に参加している。地域のマンドリンやオカリナのボランティアの訪問を受け入れたり、小学生の訪問があるなど交流している。法人合同で開催した恵海まつりには、約300名の地域住民の参加協力を得て交流を深めている。</p>	地域の行事に積極的に参加したり、総合施設内にある地域交流室も活用したりする等、地域との交流をさらに深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に関する研修には積極的に参加している。研修後他職員にも伝達研修を実施し、個別の理解や支援方法を学んでいる。地域の方が参加される会議等では、勉強会を取り入れたり、質問場面を設定しアドバイスさせていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 日常生活の様子は映像にて伝え、外部評価・実地指 導・ヒヤリハット・事故等については、内容を報告し ている。いただいた質問や意見などは、改善方法とし てサービスの向上に生かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、市担当者、自治会長、 民生委員等の参加を得て開催している。会議では行事 報告や入所者の情報、ヒヤリハットの報告、意見交換 等を行っている。会議録は職員にも回覧し情報を共有 している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護保険については、制度の改正時には連絡を密に 取っている。運営推進会議に参加していただいている ので、アドバイスや相談等をしていただきながら連携 を深めている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報 告や意見交換をしている。また、市担当者とは開設前 から分からないこと等を相談しており、日頃から連携 が取れている。市からの介護相談員を受け入れてお り、利用者のよき相談相手となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在身体拘束の具体的な行為は行っていない。2ヶ月 に1回身体拘束廃止委員会を開催し、職員の日常の行 動や発言が身体拘束になっていないか話し合ってい る。又毎年1回全職員対象の勉強会を実施し、身体拘 束をしないケアが大切であることの理解を促してい る。	
			(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、身体拘束廃止委員会 を設けて職員間で話し合いをしている。また、勉強会 も行い、職員は理解して身体拘束をしないケアを実践 している。玄関は開放されており、外出を希望する利 用者には職員の見守りで対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回委員会を開催し、日常の職員の行動や言動が虐待になっていないか話し合っている。議事録にて全職員に認識するよう促している。毎年1回全職員対象の勉強会を実施しマニュアル等に基づいて、発見時の対応方法などを周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 毎年研修には参加し理解を深めている。個々の状況に応じて、必要時には支援できるようにしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて十分説明するように努めている。介護報酬の改定、加算の変更により利用料が変更する場合は、文章による通知と口頭での説明をしている。ご家族の不安や疑問点にはその都度説明を行い、理解納得していただくよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には、毎回異なる家族や利用者が参加し、意見、要望等を伺うようにしている。意見箱なども設置している。市の介護相談員も定期的に訪問し、利用者と面談を実施していただいている。得られた意見、苦情については即反映、改善できるよう取り組んでいる。 (外部評価) 家族から運営推進会議や訪問時に意見や要望を聞くように努めている。利用者全員の家族を対象としたサービスの満足度調査を行い、調査結果をもとに職員全員で改善策を話し合い、話し合いや改善などの結果を家族に報告している。また、家族の訪問も多く、出された意見は職員間で話し合いを行い対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の全体会・所属長会、2ヶ月に1回のユニット会、年2回の人事考課面接（個別）を実施し、職員の声に耳を傾け、働きやすい職場作りに努めている。	
			(外部評価) 管理者と職員は意見を言い合える関係が築かれている。年2回職員との面接を実施しており、管理者は職員から意見を聞いている。出された意見は職員会やユニット会で話し合いを行い、反映できるように努めている。外部研修などにも職員を積極的に参加させており、参加した職員は職員全員に報告し、共有して日々のケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は月2回事業所を訪れ、職員一人ひとりとの関わりを大切にしている。特に管理者とは毎回面談を実施。年2回の人事考課面接では職員の半年間の目標を設定し確認するようにしている。今年度より夏休みが増加し、厚生旅行補助額のアップが決定し職員のモチベーションアップに繋がっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修には積極的に参加するようにしている。法人外の研修後は、本人が講師となって伝達研修や報告会を実施している。職員が希望する資格取得に関する講習会や勉強会の参加に関しては、各所属長に申し出し勤務の便宜を図るようにして、働きながらキャリアアップできるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の相互研修・各種研修に参加させていただき、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。又近隣の同業者とは、相方のイベントに参加し、防災訓練なども協力体制をとっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談後、自宅訪問し本人の困っていること、不安なこと、どのような希望をもっているかをゆっくり聞き、入居時に少しでも信頼に繋がるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今までの生活歴、家族としての気持ちを十分に聞き取り話し合いを実施している。入居後は細目に状況報告をし、面会時は職員から声掛けし、訪問しやすい雰囲気を作るように心がけている。家族からのアドバイスも参考にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居申し込みの時点で十分にサービスの内容等が把握できていないため、入居前面接では現在本人・家族が最も必要としているサービスを見極め支援していく。ニーズにあったサービスを提供できるように、話し合いを行うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で入居者ができることを、一緒に負担にならないように協働しながら生活をしている。入居者からヨガを教えてもらったり、懐メロを教わるなど職員側の方が学ぶことが多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「受診」、「好みの食べ物」を持参していただくなどご家族の協力をお願いしている。職員も代行できるが、あえて家族に支援をお願いし絆を大切にしている。家族同行の外出、外出は今後も継続してお願いしていく。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所の知人や元職場の方が訪ねてこられ、会話を楽しんだり、近所のうどん屋に行ったり、以前から利用している美容院に行くなど、これまでの交流を、継続的にできるよう支援に努めている。 (外部評価) 事業所へは友人や知人、近隣住民の訪問があり、交流ができるよう支援している。利用者が家族と一緒に馴染みの美容院や近くの店に出かけられるよう支援している。総合施設の2階にあるリハビリの機器を使用したり、複合施設の利用者と合同で行事等が開催される時には、利用者同士の交流があり、総合施設内でも新しい馴染みの関係が築かれ事業所自体が馴染みの場所となってきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 狭い空間での共同生活となるため、気の合う方と楽しく暮らしたいとの入居者様のニーズに答えて、食事の席や活動時のメンバー等を配慮している。又、気の合わない場合等はトラブルにならないよう、その都度職員が間に入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院を機に身体機能が低下した場合、事業所に帰れるかどうかで、本人及び家族が不安になる場合がある。社会資源を把握し、適切に援助ができるように努めている。長期入院で契約が終了した場合も同様に対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を取り入れ、各担当者が一人ひとりの意向を聞きアセスメントを実施するようにしている。ユニット会にて報告し、他のスタッフからも情報を得るようにしている。	
			(外部評価) 利用者には日々の生活の中で思いや希望を聞くよう努めている。また、把握が困難な利用者には、家族から訪問時に聞くことが多い。利用者毎の担当者を決めており、担当者が得た情報を連絡帳に記録し、職員会やユニット会で話し合いを行い職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴等を確認し把握するように努めている。また、入居者や家族との日々の会話の中から今までの生活状況、環境を聞き取れるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの身体面や精神面については、その時の発言、行動、仕草等を観察し把握に努めている。本人のできることと、できないことについては職員と一緒に実施し判断し、職員間で話し合うようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ユニット会やカンファレンスでは意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。アセスメント・モニタリングについては担当スタッフが計画作成者と相談しながら、本人や家族との話し合いを実施し、見直しを行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族、利用者毎の担当者の意見を取り入れて、計画作成担当者が介護計画を作成している。計画の見直しは6か月に1回のほか、毎月モニタリングを実施し、利用者の変化に応じてその都度計画を変更している。毎日の実践記録を残しており職員全員で共有している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別の「ケース」には日々の様子を記録し、「健康表」には、食事・水分摂取量、排泄のことを記録する。情報が共有でき統一したケアができるように努めている。介護計画の見直し時には有効に活用している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人が外出や買い物、家に帰りたいと言われた時など、できる限り希望に沿えるようにしている。6月に家族と職員がふれあう懇親会を開催し信頼関係の強化に努めた</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の民生委員より個別の訪問を受けたり、地域の駐在所より見回りをしていただくなどの支援を受けている。2ヶ月に1回訪問理美容を受け、ほとんどの入居者が活用している。2名の方は入居前まで利用していた理美容店に出かけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には受診は家族対応で、これまでの本人の主治 医を変更はしていない。家族の都合にて対応が困難な 方に対しては、職員の対応となるため近隣の主治医変 更をお願いしている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受 診できるよう支援している。家族が同行できない場合 や緊急時には、職員が代行して受診介助をしている。 利用者を往診して健康管理をしてくれるかかりつけ医 もいる。家族から利用者の受診状況など情報を得て、 職員全員で共有し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 入居者様の身体面や精神面の気づきや、異常・急変時 には看護師に報告し指示を得るなど連携している。必 要に応じて呼び出し体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は当施設から医療機関へ、生活の様子等を報 告している。入院期間中も定期的に面会し、病院関係 者や家族と話し合い、情報を交換している。入院者が いない場合でも定期的に、病院関係者や法人内のメン バーと会合を持ち、連携を強化している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期については、入居の契約時に当事業所 でできることを説明し、医療的な処置などが必要に なった場合は、主治医との連携を密にし家族の意向に 沿えるよう話し合っている。	
			(外部評価) 重度化や看取りの指針を作成している。利用者や家族 が事業所での看取りを希望する場合には、かかりつけ 医と相談して、可能な限り支援できることを説明して いる。まだ看取りの経験はないが、年1回看護師によ る研修会を行い職員全員で勉強をしている。	重度化や終末期における方針については利用者一人ひ とりに違いがあり、事業所として看取りを実施する場 合は、かかりつけ医との連携は必要不可欠である。看 取りを実施する体制づくりは早期から行っていくこと を望みたい。また、利用者の重度化や終末期の看取り の研修会は継続して実施することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員が慌てず応急手当や初期対応ができるようにマニュアルを作成しているが、実際の場面に直面した場合の不安はある。今後も定期的にAED等の勉強会を実施していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 自治会や地域、近隣事業所との協力体制については、今後お互いの訓練時に参加することを話し合った。自治会については、次の訓練に自治会長が参加して頂ける予定となっている。	
			(外部評価) 年2回、総合施設と合同で避難訓練を実施している。訓練では消防署の協力を得て、昼夜を想定して実施しており、消防署への直通の連絡システムを整備している。また、緊急連絡網を作成し、職員の災害に対する意識を高めている。次回の訓練には、自治会長等の参加協力を得て訓練を行う予定である。備蓄品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) カンファレンス時の情報の公開や、掲示する写真等入居時に本人、家族に確認し同意を得ている。個人情報の取り扱いについては職員全員が充分理解し取り組んでいる。入居者様は「人生の先輩」であるということを念頭におき、理念にも掲げ「優しい言葉、優しい笑顔、優しい態度」で接することを心がけています。	
			(外部評価) 職員は接遇の研修を受け、利用者が人生の先輩であることを常に念頭に置いて声かけに配慮している。トイレの誘導や歯みがきの誘導もごく自然に行われており、利用者と職員との間はとても良好な関係が築かれていることが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事については、1回/w選択食を実施し、自己決定できるように支援している。買い物やドライブなどについては、希望があればすぐ実行できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の状態を観察し、外出、買い物などの気分転換の機会を設けている。一人ひとりのペースを崩さないように職員間で心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室を希望される場合は支援をしている。洋服は同じものにならないように、さりげなく支援している。朝の更衣の時は選ぶことが可能な方については、選んだ服を着ていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理に関しては、ユニット内で調理していないが食事の盛り付けや片づけなど入居者様と実施している。夏には特大竹を使用してソーメン流しを実施。食欲アップに繋がった。	
			(外部評価) 食事は総合施設の厨房で調理している。食器類は事業所内に置いてあり、盛り付けは職員が行っている。ご飯は事業所内で炊いており、治療食が必要な利用者に対しては、栄養士と相談しながら支援している。盛り付けや後片付けなどできることを職員と一緒に利用者が手伝っている。おやつづくりは利用者と一緒に事業所内で行っており、楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士よりカロリーや栄養バランスを考えて食事・おやつを提供してもらっている。食事・水分の摂取量は、個別の健康表にて把握している。水分補給はいろいろなものを用意し選択し、細目に摂取してもらえよう配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けし口腔ケアを実施しているが、自力、一部介助、全介助とさまざまであるが、拒否してできない方もいる。義歯の方は寝る前に洗浄剤につけるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の排泄パターンや排泄の失敗などの状況を確認し、布パンツへの移行に取り組んでいる。尿意・便意のない方には、定期的に誘導しトイレで排泄できるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をするなど状態に合わせた排泄支援をしている。昼間はなるべくトイレ誘導をして利用者が排泄できるよう心がけている。夜間は眠剤を服用している利用者もあり、睡眠を優先する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤を服用している方もおられるが、できる限り運動や水分の摂取や、食べ物（サツマイモ）等の摂取にて、自然排便できるように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 現在は午後入浴していることが多くなってる。生活パターンが定着してきたため、午前中に入浴を好む方は少なくなっている。複合施設となっているため、身体機能に応じて機械浴も使用可能である。	
			(外部評価) 利用者は入浴時間などの希望に応じて自由に入浴することができる。入浴が苦手な利用者には、入浴日を変更したり、声かけや職員を変えるなど工夫をして週1～2回は入浴できるよう努めている。利用者の状態に応じて、機械浴を利用して安全に入浴できる支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転にならないように配慮しているが、夜間安眠できていない時は、短時間の昼寝を促し身体や気分を休めるよう配慮している。起床や入眠時間については本人の希望に合わせた対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用中の薬については、薬の説明用紙を個々のケースに入れ、スタッフが内容や副作用について理解できるようにしている。薬が変更になった時は必ず申し送り、状態の変化の観察を行うようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中でできることや、できそうなことを一緒にしながら観察しています。家庭菜園や生け花、貼り絵、書写など一人ひとりの好みに応じて支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) それぞれの希望に応じて自由に散歩したり、外気浴など実施している。少人数での外出ではイチゴ狩り、紫陽花見物、地域の公民館で実施された人形劇の観賞に参加し地域の方との交流をしている。	
			(外部評価) 事業所の敷地は広く利用者は敷地内をよく散歩したり、近くの公園に出かけることも多い。利用者の希望に応じて、近くのスーパーに買い物に出かけたり、家族と一緒に外食できるよう支援している。ユニット毎に外出計画を実行しているほか、季節毎の外出を増やすことを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭面に関しては、ホームで預かっている方が多い。現在は1名のみ所持している。時々お金の心配をされる方がいるが、職員が声掛けしながら少しでも安心できるように配慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は事務所で使用するためプライバシーは守られているとは言えない。電話はいつでも使用できることを声掛けしている。手紙についても依頼時は職員が投函している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・居間などは和風の雰囲気を出している。いつでもユニット間を自由に行き来でき、「うみかぜ」エントランスでは喫茶コーナーもある。又季節の作品を創って飾ったり、職員が撮った写真を飾って季節感を取り入れている。</p> <p>(外部評価) ユニットは玄関から両サイドに分かれており、利用者はユニット間も含めて自由に行き来することができる。共用空間にはテーブルやソファが置いてあり、利用者に合わせユニット毎に配置を変えている。居間には畳のスペースも確保され、壁には季節に合わせた手づくりの物が飾られている。掃除も行き届き、利用者が居心地よく過ごせるような空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関にはちょっと座れるいろりや、リビングの共同生活空間だけでなく、少し離れた所に談話コーナーや、ソファなど落ち着けるスペースがある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各居室にはベット、洗面台、クローゼットが完備している。自宅で使用していたタンス、テレビ、ソファ、思い出の写真など持参して頂き本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の表札は利用者の誕生月の花の絵を職員が描いて表示している。居室は洗面台や収納のスペースも確保されている。居室には利用者の使い慣れた家具などを自由に持ち込むことができ、好みのレイアウトを楽しんでいる。大きな仏壇を持ち込んでいる利用者もあり、落ち着いて過ごせるように、利用者に合った空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 入居者の方が安全で家庭と同じような環境になるように配慮している。ソファやテーブルなどの配置を工夫して、できるだけ自力で生活できるように心がけている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890500303
法人名	社会福祉法人 三恵会
事業所名	グループホームかがやき
所在地	愛媛県新居浜市阿島1丁目7-20
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 27 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの目の前に市の東浜公園が広がっており、開放的でいつでも気軽に散歩や休憩ができます。お花見や運動会などを実施し、季節感を味わっていただいております。ご家族の来訪者が多く、休日には遊具で遊ぶ子供さんや、ゲートボールを楽しむ地域の方とふれあい楽しく過ごされております。これからはスタッフ一同「笑顔で、共に、いきいきと」を心に入居者様と一緒に生きていきたいと考えています。又、小規模特養うみかぜとの複合施設となっているため、これからも協力体制を図りながら、地域の高齢者福祉に貢献していきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者総合施設の1階にある事業所は、グループホーム専用の家庭的な玄関があり落ち着いた雰囲気を感じられる。ユニット間は自由に行き来ができるようになっており、利用者と職員は共に顔馴染みの関係となっている。管理者と職員は事業所独自の理念を共有して、利用者の日々の暮らしを支えている。地域の自治会に入り利用者と一緒に地域の行事に参加するなど、地域の一員としての役割を担っている。総合施設合同で開催した夏祭りには地域住民が多く参加し、地域のイベントとして定着している。事業所の敷地内には観音像を設置しており、地域住民も参拝できるようになっており参拝者と交流をしている。食事は総合施設の厨房で調理し、献立も栄養士が立てているため栄養管理もできている。医療面では利用者が希望するかかりつけ医を受診できるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームかがやき

(ユニット名) 絆

記入者(管理者)
氏名 小笠原博子

評価完了日 平成 25 年 8 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎年4月の職員全体会にて「職員の姿勢」の勉強会として法人・事業所の理念を学び再認識する。又、月曜日の朝会にて復唱している。これを踏まえ「かがやきの理念」も掲げ、ユニット内に掲示し実践強化に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員全員で話し合い事業所独自の理念を作成し、事業所内のよく見える場所に掲示し共有して実践している。毎週月曜日に総合施設の職員と合同で法人理念と共に復唱しており、会議等でも理念を実践できているか職員間で確認し合っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の自治会に加入し、地域の一員として交流している。地域行事に参加したり、直近では「うみかぜ」と合同で「恵海まつり」を開催し、地域の方への感謝の気持ちを還元し入居者と一緒に楽しんだ。</p> <p>(外部評価) 事業所は自治会に加入しており、自治会の一員としての役割も担っている。地域の行事の案内もいただき、利用者と一緒に行事に参加している。地域のマンドリンやオカリナのボランティアの訪問を受け入れたり、小学生の訪問があるなど交流している。法人合同で開催した恵海まつりには、約300名の地域住民の参加協力を得て交流を深めている。</p>	地域の行事に積極的に参加したり、総合施設内にある地域交流室も活用したりする等、地域との交流をさらに深めることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症に関する研修には積極的に参加している。研修後他職員にも伝達研修を実施し、個別の理解や支援方法を学んでいる。地域の方が参加される会議等では、勉強会を取り入れたり質問場面を設定しアドバイスさせていただいている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 日常の生活の様子は映像にて伝え、外部評価、実地指 導、ヒヤリハット・事故報告については内容を報告し ている。頂いた質問や意見等は改善方法としてサービ スの向上に生かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、市担当者、自治会長、 民生委員等の参加を得て開催している。会議では行事 報告や入所者の情報、ヒヤリハットの報告、意見交換 等を行っている。会議録は職員にも回覧し情報を共有 している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険については、制度の改正時には連絡を密に 取っている。運営推進会議に参加していただいている ので、アドバイスや相談等をしていただきながら連携 を深めている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加しており、事業所の報 告や意見交換をしている。また、市担当者とは開設前 から分からないこと等を相談しており、日頃から連携 が取れている。市からの介護相談員を受け入れてお り、利用者のよき相談相手となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 現在身体拘束の具体的な行為は行っていない。2ヶ月 に1回身体拘束廃止委員会を開催し、職員の日常の行 動や発言が身体拘束になっていないか話し合ってい る。又、毎年1回全職員対象の勉強会を実施し、身体 拘束をしないケアが大切であることの理解を促してい る。	
			(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、身体拘束廃止委員会 を設けて職員間で話し合いをしている。また、勉強会 も行い、職員は理解して身体拘束をしないケアを実践 している。玄関は開放されており、外出を希望する利 用者には職員の見守りで対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回委員会を開催し、日常の職員の行動や言動が虐待になっていないか話し合っている。議事録にて全職員に認識するよう促している。毎年1回全職員対象の勉強会を実施し、マニュアル等に基づいて発見時の対応方法等を周知している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 毎年研修に参加し理解を深めている。現在活用はしていないが、個々の状況に応じて、必要時には支援できるようにしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間をかけて十分説明するように努めている。介護報酬の改定、加算の変更により利用料が変更する場合には、文章による通知と口頭での説明をしている。ご家族の不安や疑問点にはその都度説明を行い、理解、納得していただくよう配慮している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議には、毎回異なる家族や利用者が参加し、意見、要望等を伺うようにしている。意見箱なども設置している。市の介護相談員も定期的に訪問し利用者や面談を実施していただいている。いただいた意見、苦情については即反映、改善できるよう取り組んでいる。 (外部評価) 家族から運営推進会議や訪問時に意見や要望を聞くように努めている。利用者全員の家族を対象としたサービスの満足度調査を行い、調査結果をもとに職員全員で改善策を話し合い、話し合いや改善などの結果を家族に報告している。また、家族の訪問も多く、出された意見は職員間で話し合いを行い対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の全体会、所属長会、2ヶ月に1回のユニット会、年2回の人事考課面接(個別)を実施し、職員の声に耳を傾け働きやすい職場づくりに努めている。	
			(外部評価) 管理者と職員は意見を言い合える関係が築かれている。年2回職員との面接を実施しており、管理者は職員から意見を聞いている。出された意見は職員会やユニット会で話し合いを行い、反映できるように努めている。外部研修などにも職員を積極的に参加させており、参加した職員は職員全員に報告し、共有して日々のケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は月2回事業所を訪れ職員一人ひとりとの関わりを大切にしている。特に管理者とは毎回面談を実施している。年2回の人事考課面接では職員の半年間の目標を設定し確認するようにしている。今年度より夏休みが増加し、厚生旅行補助額のアップが決定し職員のモチベーションアップに繋がっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修には積極的に参加するようにしている。法人外の研修後は、本人が講師となって伝達研修や報告会を実施している。職員が希望する資格取得に関する講習会や勉強会の参加に関しては、所属長に申し出し勤務の便宜を図るようにして、働きながらキャリアアップできるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会主催の相互研修、各種研修に参加し、同業者との交流や勉強の機会をいただいている。又近隣の同業者とは、相方のイベントに参加し、防災訓練等も協力体制をとっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談後自宅訪問し、本人の困っていること、不安なこと、どのような希望を持っているかをゆっくり聞き、入居時に少しでも信頼に繋がるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に今までの生活歴、家族としての気持ちを十分に聞き取り話し合いを実施している。入居後は細目に状況報告をし、面会時は職員から声掛けし、滞在しやすい雰囲気を作るようにこころがけている。家族からのアドバイスも参考にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居申込の時点で十分にサービスの内容が把握できていないため、入居前面接では本人、家族が今最も必要としているサービスを見極め支援していく。ニーズにあったサービスを提供できるよう話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活の中で入居者様ができることを、一緒に協働しながら暮らしている。入居者様からヨガを教えてもらったり、懐メロを教わるなど職員側の方が学ぶことが多い。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「受診」「好みの食べ物」等を持参していただくなど家族の協力をお願いしている。職員が代行できるが、あえて家族に支援をお願いし絆を大切にしている。家族同行の外食、外出は今後も継続して頂く。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近所の知人や元職場の方が訪ねてこられ、会話を楽しんだり、近所のうどん屋に行ったり、以前から利用している美容院に行くなど、これまでの交流を継続的にできるよう支援に努めている。 (外部評価) 事業所へは友人や知人、近隣住民の訪問があり、交流ができるよう支援している。利用者が家族と一緒に馴染みの美容院や近くの店に出かけられるよう支援している。総合施設の2階にあるリハビリの機器を使用したり、複合施設の利用者と合同で行事等が開催される時には、利用者同士の交流があり、総合施設内でも新しい馴染みの関係が築かれ事業所自体が馴染みの場所となってきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 狭い空間での共同生活となるため、気の合う方と楽しく暮らしたいとのニーズに答えて、食事の席や活動時のメンバー等を配慮している。又、気の合わない場合等はトラブルにならないよう、その都度職員が間に入り支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院を機に身体機能が低下した場合、事業所に帰れるかどうかで本人及び家族が不安になる場合がある。社会資源の新しい情報を把握し適切に援助ができるように努めている。長期入院で契約が終了した場合も同様に対応している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を取り入れ各担当者が一人ひとりの意向を聞きアセスメントを実施するようにしている。ユニット会にて報告し、他のスタッフからも情報を得るようにしている。	
			(外部評価) 利用者には日々の生活の中で思いや希望を聞くよう努めている。また、把握が困難な利用者には、家族から訪問時に聞くことが多い。利用者毎の担当者を決めており、担当者が得た情報を連絡帳に記録し、職員会やユニット会で話し合いを行い職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 職員は生活歴等を確認し把握するように努めている。又入居者や家族との日々の会話の中から今までの生活状況、環境を聞きとれるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの身体面や精神面については、その時の発言、行動、仕草等を観察し把握に努めている。本人のできることで、できないことについては職員と一緒に実施し判断して職員間で話し合うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会やカンファレンスでは意見を出し合い介護計画に反映していけるように努めている。アセスメント・モニタリングについては、担当スタッフが計画作成者と相談しながら、本人や家族との話し合いを実施し、見直しを行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族、利用者毎の担当者の意見を取り入れて、計画作成担当者が介護計画を作成している。計画の見直しは6か月に1回のほか、毎月モニタリングを実施し、利用者の変化に応じてその都度計画を変更している。毎日の実践記録を残しており職員全員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別のケースには日々の様子を記録し、健康表には食事・水分摂取量、排泄のことを記録し、情報が共有でき統一したケアができるように努めている。介護計画の見直しには有効に活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人が外出や買い物、家に帰りたと言われた時など、できる限り希望に沿えるようにしている。6月に家族と職員がふれ合う懇親会を実施し、信頼関係の強化に努めた。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の民生委員より個別の訪問を受けたり、地域の駐在所より見回りをしていただくなどの支援と、2ヶ月に1回訪問理美容を受け、ほとんどの入居者様が活用している。3名の方は入居前まで利用していた理美容店に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には受診は家族対応で、これまでの本人の主治 医を変更はしていない。家族の都合にて対応が困難な 方に関しては、職員の対応となるため近隣の主治医変 更をお願いしている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を家族の協力を得て受 診できるよう支援している。家族が同行できない場合 や緊急時には、職員が代行して受診介助をしている。 利用者を往診して健康管理をしてくれるかかりつけ医 もいる。家族から利用者の受診状況など情報を得て、 職員全員で共有し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 入居者様の身体面や精神面の気づきや、異常・急変時 には看護師に報告し指示を得るなど連携している。必 要に応じて呼び出し体制を整えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院の際は当施設から医療機関へ、生活の様子等を報 告している。入院期間中も定期的に面会し、病院関係 者や家族と話し合い情報を交換している。入院者がい ない場合でも定期的に病院関係者や法人内のメンバー と会合を持ち、連携を強化している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や終末期については、入居の契約者に当事業所 でできることを説明し、医療的な処置などが必要に なった場合は、主治医との連携を密にし家族の意向に 沿えるよう話し合っている。	
			(外部評価) 重度化や看取りの指針を作成している。利用者や家族 が事業所での看取りを希望する場合には、かかりつけ 医と相談して、可能な限り支援できることを説明して いる。まだ看取りの経験はないが、年1回看護師によ る研修会を行い職員全員で勉強をしている。	重度化や終末期における方針については利用者一人ひ とりに違いがあり、事業所として看取りを実施する場 合は、かかりつけ医との連携は必要不可欠である。看 取りを実施する体制づくりは早期から行っていくこと を望みたい。また、利用者の重度化や終末期の看取り の研修会は継続して実施することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員が慌てず応急手当や初期対応ができるようにマニュアルを作成しているが、実際の場面に直面した場合の不安はある。今後も定期的にAED等の勉強会を実施していきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 自治会や地域、近隣の事業所との協力体制については、今後お互いの訓練時に参加することを話し合った。自治会については、次の訓練に自治会長が参加していただけるよう予定している。	
			(外部評価) 年2回、総合施設と合同で避難訓練を実施している。訓練では消防署の協力を得て、昼夜を想定して実施しており、消防署への直通の連絡システムを整備している。また、緊急連絡網を作成し、職員の災害に対する意識を高めている。次回の訓練には、自治会長等の参加協力を得て訓練を行う予定である。備蓄品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) カンファレンス時の情報の公開や掲示する写真等入居時に本人、家族に確認し同意を得ている。個人情報の取り扱いについては、職員全員が理解し取り組んでいる。入居者様は「人生の先輩」であるということを念頭に置き理念でもある「優しい言葉、優しい笑顔、優しい態度」で接することを心がけています。	
			(外部評価) 職員は接遇の研修を受け、利用者が人生の先輩であることを常に念頭に置いて声かけに配慮している。トイレの誘導や歯みがきの誘導もごく自然に行われており、利用者と職員との間はとても良好な関係が築かれていることが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食事について1週間に1回選択食を実施し自己決定できるように支援している。買い物やドライブ等については希望があれば、すぐに実行できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の状態を観察し外出、買い物等の気分転換の機会を設けている。一人ひとりのペースを崩さないように職員間で心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室を希望される場合は支援をしている。洋服は同じものにならないようにさりげなく支援している。朝の更衣の時、可能な方については自分で選んだものを着用していただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理に関してはユニット内で調理していないが、食事の盛り付けや片付けなど入居者様と実施している。夏には竹を使用してソーメン流しを実施。食欲アップに繋がった。	
			(外部評価) 食事は総合施設の厨房で調理している。食器類は事業所内に置いてあり、盛り付けは職員が行っている。ご飯は事業所内で炊いており、治療食が必要な利用者に対しては、栄養士と相談しながら支援している。盛り付けや後片付けなどできることを職員と一緒に利用者が手伝っている。おやつづくりは利用者と一緒に事業所内で行っており、楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士よりカロリーや栄養バランスを考えて食事・おやつを提供してもらっている。食事・水分の摂取量は、個別の健康表にて把握している。水分補給はいろいろなものを用意し選択し小まめに摂取してもらえよう配慮している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛けし口腔ケアを実施しているが、自力、一部介助、全介助とさまざまであるが、拒否してできない方もいる。義歯の方は寝る前に洗浄剤につけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の排泄パターンや、排泄の失敗等の状況を確認し、布パンツへの移行に取り組んでいる。尿意・便意のない方には、定期的に誘導しトイレで排泄できるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をするなど状態に合わせた排泄支援をしている。昼間はなるべくトイレ誘導をして利用者が排泄できるよう心がけている。夜間は眠剤を服用している利用者もあり、睡眠を優先する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤を服用している方もおられるが、できる限り運動や水分の摂取や、食べ物（サツマイモ）等の摂取にて、自然排便できるように努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 現在は午後入浴していることが多くなっている。生活パターンが定着してきたため、午前中に入浴を好む方は少なくなっている。複合施設となっているため、身体機能に応じて機械浴も使用可能である。	
			(外部評価) 利用者は入浴時間などの希望に応じて自由に入浴することができる。入浴が苦手な利用者には、入浴日を変更したり、声かけや職員を変えるなど工夫をして週1～2回は入浴できるよう努めている。利用者の状態に応じて、機械浴を利用して安全に入浴できる支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転にならないように配慮しているが、夜間安眠できていない時は、短時間の昼寝を促し身体や気分を休めるよう配慮している。起床や入眠時間については希望に合わせた対応を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬中の薬については、薬の説明用紙を個々のケースに入れ、スタッフが内容や副作用について理解できるようにしている。薬が変更になった時は必ず申し送り、状態の変化の観察を行うようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 生活の中でできることや、できそうなことを一緒にしながら観察しています。書写、観音様への参拝、洗濯物干し・たたみ等一人ひとりの好みに応じて支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) それぞれの希望に応じて自由に散歩したり、施設内の他事業所へ行ったりしている。少人数の外出では、喫茶店でのお茶会をしたり、近くのスーパーでの買い物に出かけたり、また、地域の公民館で実施された人形劇の観賞に参加し地域の方と交流をしている。	
			(外部評価) 事業所の敷地は広く利用者は敷地内をよく散歩したり、近くの公園に出かけることも多い。利用者の希望に応じて、近くのスーパーに買い物に出かけたり、家族と一緒に外食できるよう支援している。ユニット毎に外出計画を実行しているほか、季節毎の外出を増やすことを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭面に関しては、ホームで預かっている方が多い。現在は3名の方が所持している。時々お金の心配をされる方がいるが、職員が声掛けしながら少しでも安心できるように配慮している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は事務所で使用するためプライバシーが守られているとは言えない。電話はいつでも使用できることを声掛けしている。1名の方が携帯電話を持参している。手紙については、依頼時は職員が投函している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関・居間は和風の雰囲気をだしている。いつでもユニット間を自由に行き来でき、「うみかぜ」エントランスでは喫茶コーナーもある。季節の作品を創って飾ったり、職員が撮った写真を飾って季節感をとり入れている。</p> <p>(外部評価) ユニットは玄関から両サイドに分かれており、利用者はユニット間も含めて自由に行き来することができる。共用空間にはテーブルやソファが置いてあり、利用者に合わせユニット毎に配置を変えている。居間には畳のスペースも確保され、壁には季節に合わせた手づくりの物が飾られている。掃除も行き届き、利用者が居心地よく過ごせるような空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関にはちょっと座れるいろりや、リビングの共同生活空間だけでなく、少し離れた所には談話コーナーや、ソファなど落ち着けるスペースがある。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各居室にはベット、洗面台、クローゼットが完備している。自宅で使用していたタンス、テレビ、ソファ、仏壇、思いでの写真等持参していただき、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の表札は利用者の誕生月の花の絵を職員が描いて表示している。居室は洗面台や収納のスペースも確保されている。居室には利用者の使い慣れた家具などを自由に持ち込むことができ、好みのレイアウトを楽しんでいる。大きな仏壇を持ち込んでいる利用者もあり、落ち着いて過ごせるように、利用者に合った空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 入居者が安全で家庭と同じような環境になるように配慮している。ソファ、テーブル等の配置を工夫して、できるだけ自力で生活できるように心がけている。</p>	